

ひんやり「風穴」ホットな活用を 出雲でサミット

2015年08月31日



八雲風穴を見学する風穴サミットの参加者ら（出雲市佐田町で）

真夏でも地中からひんやりした風が吹き出す「風穴ふうけつ」がある全国各地の関係者らが一堂に会し、活用に向けて情報交換する「第2回全国風穴サミット in 出雲」が29日、出雲市佐田町で開かれた。夏のクールスポットとして観光客増を目指す「八雲風穴」のある同町に、秋田、群馬、佐賀県などの7風穴の関係者ら120人が集まった。

全国の風穴を探查している清水長正・駒沢大講師（自然地理学）が講演で、日本の風穴は、ゴロゴロした岩の斜面下部から風が吹き出す「岩錐がんすい型」が最も多いことや、明治時代には蚕の卵を低温管理する「風穴蚕種業」が盛んだったことを説明した。

島根県技術士会の坂田聖二さん（32）は、2013年から佐田町で調査し、八雲風穴のほかにもかつて種牛の精子保存に使われた風穴があったが、今は草に覆われて詰まっていると報告。「活用するには、人が積極的に手入れしなければいけない」と提言した。

佐賀県武雄市の「永野の風穴かざあな」保存会の緒方靖章会長（67）は「江戸時代に殿様の避暑地だったが、今は過疎化で埋没しそうになっている。活性化のヒントをもらって帰りたい」と話していた。

地域活性化グループ「八雲風穴・風太郎」の勝部秀雄会長（75）は「風穴祭りなど観光PRや日本酒の貯蔵をしているが、入場者は減少傾向。ほかの地域との連帯も大切だ」と話した。

風穴生かそう 熱い思い結集

「天然の冷蔵庫」として養蚕業や農産物の保管などに活用されてきた風穴をテーマにした「全国風穴サミットin出雲」が29日、出雲市佐田町原田の出雲須佐温泉ゆかり館であった。

出雲

県内外から約130人が集まり、地域に残る「宝」の歴史などを学び、今後の活用策を考えた。
(熊谷美咲)

サミットは、全国で風穴 佐田町朝原にある八雲風穴 会が開いた。が最も多いとされる長野県 指定管理する団体「風太 基調講演では、風穴研究で2014年8月に開催し 郎」(勝部秀雄会長)や地の第一人者とされる駒沢大 たのに続き2回目。出雲市 元住民らでつくる実行委員 地学科の清水長正講師や勝

全国の130人「サミット」

専門 家 地域での継承呼び掛け



風穴の歴史や今後の活用策について語る清水長正講師



八雲風穴内の温度を確認する参加者

部会長ら5人が登壇。清水講師は、明治期に蚕糸業の振興に伴い、蚕の卵の貯蔵場として全国各地の風穴が利用され、当時は約300カ所あったものの、昭和初期以降は電気冷蔵庫の普及によって使われなくなった歴史を解説した。

今後の活用として、産業遺産としての文化財指定や、人工的な風穴の開発などを提案し、「風穴を地域で継承してほしい」と呼び掛けた。

勝部会長は、1989年に風太郎を結成し、八雲風穴の一般公開やイメージキャラクターの作成などの魅力発信に努めていることを紹介した。

このほか、活用策を探るパネルディスカッションや、八雲風穴の見学も行った。

風がひ～んやり「風穴」の保存・活用考える

島根・出雲でサミット

第2回「全国風穴サミット」で風穴内の温度を測る駒沢大の清水長正講師（左）ら
= 29日午後、島根県出雲市



冷風が吹き出す風穴の活用方法を考える第2回「全国風穴サミット」が29日、八雲風穴がある島根県出雲市で開かれた。

サミットでは風穴の研究をする駒沢大の清水長正講師らが参加者約130人に歴史や仕組みについて説明。風穴で貯蔵した焼酎を発売している長野県大町市のNPOの代表理事傘木宏夫さん（55）は、今後の活用についてのパネル討論で「風穴の可能性を探りながら、付加価値をつける動きをしていきたい」と意気込んだ。

多くの風穴は、斜面に積み重なる岩の隙間から、冷風が吹き出す場所を指す。清水講師によると、明治期に冷風で蚕の卵を冷やして養蚕の時期を調整するのに使われ始め、当時は約300カ所あった。

第1回は大町市で開かれた。

産経 WEST 2015.8.29 19:57 更新

島根・出雲で「風穴」サミット 活用方法考える

更新日時:2015年8月30日(日) AM 12:45

冷風が吹き出す風穴の活用方法を考える第2回「全国風穴サミット」が29日、八雲風穴がある島根県出雲市で開かれた。

サミットでは風穴の研究をする駒沢大の清水長正講師らが参加者約130人に歴史や仕組みについて説明。風穴で貯蔵した焼酎を発売している長野県大町市のNPOの代表理事傘木宏夫さん(55)は、今後の活用についてのパネル討論で「風穴の可能性を探りながら、付加価値をつける動きをしていきたい」と意気込んだ。



第2回「全国風穴サミット」で、風穴内の温度を確認する参加者＝29日午後、島根県出雲市

多くの風穴は、斜面に積み重なる岩の隙間から、冷風が吹き出す場所を指す。



上毛新聞ニュース

ぐんまの話題と情報

(共同通信社にて全国配信)

風穴の利活用いかに

出雲

佐田で全国サミット

全国から風穴の関係者や研究者らが集う全国風穴サミット。出雲が29日、出雲市佐田町の出雲須佐温泉ゆかり館で開かれ、参加した約130人が、今後の風穴の利活用などについて意見を交わした。

全国風穴サミット 全国風穴サミットは、風穴の研究や復元、利用などを行う関係者の交流会として、昨年長野県大田市で第1回目が開かれ、今回が2

回目。全国的に見ても規模が大きく、観光にも活用されている八雲風穴を有することから出雲市で実施されることになり、管理運営す

る八雲風穴活性化風太郎グループ(勝部秀雄会長)を中心に実行委員会(田邊達也実行委員長)を立ち上げ、準備を進めてきた。今回は、来年3回目が開かれる長野県上田市や、4回目が開かれる予定の群馬県下仁田町など12県から参加があった。サミットでは各地の研究者や活用

団体の代表らによる基調講演やパネルディスカッション、八雲風穴の見学会、交流会が行われた。講演では、勝部会長や風穴研究者らが講師となり、風穴のしくみや各地域での風穴活性化の取り組み状況、富岡製糸場と絹産業遺産群の構成資産として世界遺産となった荒船風



全国のパネリストによるディスカッション = 29日、出雲須佐温泉ゆかり館

穴などに関して説明。続いて行われたパネルディスカッションでは、基調講演の講師や次回以降の開催地で風穴の利活用に取り組みグループの代表らがパネリストを務め、各地で行われている風穴の活用例や今後のさらなる

利活用について意見を出した。パネリストは活用例として、日本酒やワイン、ソバの実、リンゴなどの貯蔵や、風穴やその周囲の自然環境などを含めて教育活動の場としていること。風穴のそばにハウスを設置してシイタケを栽培すると、通常のハウスや露地栽培とは違う時期に出荷できるなど、それぞれの活用例を話した。冷風穴だけでなく、温風穴では梅の鉢を入れておくことで、開花の時期が早まるという活用例も挙げられ、今後の構想では、風穴を

中心としたジオパークや、ゲームやアニメの舞台となることから、キャラクターを作成することなどの案が出された。ホームページで積極的にPRしたり、全国の情報を収集し、各地の関係者がより連携できるネットワークを作るといった意見もあった。この中で勝部会長は、八雲風穴では怪談作家の小泉八雲にちなみ、怪談話を聞く会場として活用していることを説明した。風穴の見学では、参加者が各自の地域にある風穴との温度の差や、冷風が吹き出す場

所を確認する姿が見られた。参加者の一人、加藤嘉一さん(47)は、自身が所属する一般財団法人越前おおの農林楽舎の活動の一環で、日本百名山に数えられる荒島岳にある風穴を利用した商品開発に役立てるため、福井県大野市から訪れた。加藤さんは、「八雲風穴は山中腹で林道の奥にある荒島風穴と比べ、温度は少し高いが、一般人が来やすい場所にある。今回出された色々な事例を参考に、荒島風穴のブランド力を上げていきたい」と話した。